
「新約のきよめ」

第22章 求める人々への勧告

全き聖化が何であるかをはっきり知る

目ざすところをよく知らなければ、正しく求めることもできない。

全き聖化とは

- (1) 義認とは区別される恵みの状態。
- (2) 内住の罪からの全き浄化を含み、純潔になって、罪深い性情や傾向性から自由になること。
- (3) 御霊のすべての恵みと実に心が満たされること。愛において完全であること。

この恵みが現世において到達可能な経験だと確信する

到達不可能と思っていることのために奮闘することはできない。

得ることができるかと確信しているからこそ、求めることができる。

その確信の根拠は

- ・神の命令があること。神が不可能なことを要求されることはない。
- ・みことばの約束があること。約束したことができないと考えることは、神の力に対する侵害。
- ・それを求める多くの祈りが、靈感された人々によってささげられていること。答えられると信じているからこそ、祈られている。

得るまではやめない

今この恵みにあずかろうと、決然と心を固める。

私たちの必要は、もっと願うこと。
期待することに時間を浪費しないこと。

神はそれがおできになる

神は、計画されたことは、成し遂げられる。

「ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことがおできになります。」
この「完全に」は原語では継続性と極限までの完全さという二つの思想が結合されている語。

神さまは私たちの必要の範囲の極限まで、完全に救ってくださる。

私たちは、神さまの力を制限してはならない。

私たちの義務は、ただ従うことであって、疑うことではない。
神の宣言のとおり「計算する」ことが求められている。

何のために求めるか

ふさわしくない動機で求める、ということがあり得る。

名声を勝ち取ろうとする動機。

有能な人々の間で目立ちたいという動機。

自分が幸福になり、楽しみ喜びたいという動機。

これらはすべて与え主ではなく、賜物だけを求めようとする思い。

この恵みを得る目的は、キリストの栄光が現されること。

個人的な喜びや名声ではなく、神を中心としたものでなければならない。

キリストと利害が完全に一致すること。